

2020年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
**「豊島区における日本語学習環境と情報交流に関する実態調査」結果報告 <速報版>**

2021年3月6日刊行

豊島区政策経営部企画課  
 学習院大学国際センター

このたび、豊島区と学習院大学は、豊島区在住の外国籍区民を対象にアンケート調査を実施しました。現在の豊島区はどの程度日本語学習のための環境が整っているのか、豊島区で生活する外国籍の方々に各種の情報は届いているか、といったことを知るための調査です。この調査の結果を踏まえ、日本語が学びやすい環境を作るための方策を検討していきます。

本冊子は、調査結果の一部を広く迅速にお知らせするためのものです。今後、翻訳版とともに、豊島区及び学習院大学国際センターのホームページに掲載します。詳細な分析結果は2021年の上半期にまとめる計画です。

<調査の概要>

調査実施主体: 豊島区, 学習院大学  
 対象: 豊島区に住民登録をしている18歳以上の外国籍住民  
 方法: ウェブアンケート(依頼状を郵送)  
 言語: 日本語, やさしい日本語, 英語, 韓国語, 中国語(簡体字, 繁体字), ベトナム語, ネパール語, ミャンマー語により実施  
 調査期間: 2020年10月13日～11月1日

内容

- 1) 日本語学習に関する項目: 学習状況, 日本語能力, 日本語使用状況, 等 (文化庁「日本語教育に関する調査の共通利用項目」を一部修正して利用)  
 2) 情報交流に関わる項目: 情報・施設の活用状況, 等  
 3) 属性  
 回収数: 1,348件 (発送数9,630件), 有効回答数1,179件

1. 回答者について

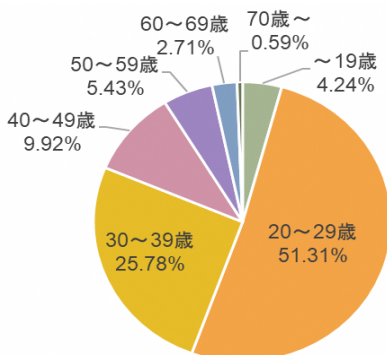
1-1. 出身国・地域

中国	ベトナム	韓国・朝鮮	台湾	ネパール	ミャンマー	フィリピン	米国	フランス	マレーシア	その他	計(人)
582	120	102	76	59	53	22	22	15	10	118	1,179

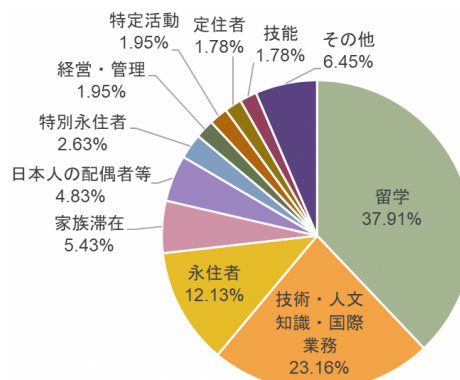
1-2. 性別

男性531人(45.04%), 女性627人(53.18%), 回答しない19人(1.61%), その他2人(0.17%)であり、豊島区の外国籍区民の性別内訳よりも若干女性が多くなっています。

1-3. 年齢



1-4. 在留資格



1-5. 日本在住期間

日本在住期間	人数(%)
1. 6か月未満	4(0.34%)
2. 6か月以上～12か月未満	66(5.60%)
3. 1年以上～3年未満	403(34.18%)
4. 3年以上～5年未満	217(18.41%)
5. 5年以上～10年未満	211(17.90%)
6. 10年以上～15年未満	122(10.35%)
7. 15年以上	156(13.23%)

<問い合わせ先>

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1  
 学習院大学国際センター  
 E-mail: nnet.toshima.jimu@gmail.com  
 Tel: 03-5992-1024

## 2. 日本語学習・日本語能力・日本語使用について

調査では8言語9種類の調査票から回答しやすい言語を選んでもらいました。その結果、有効回答1,179件のうち「日本語版」での回答が310件ありました。「2」については、日本語学習を必要とする人の回答傾向を明らかにする必要があると考え、「日本語版」と「日本語版以外」の回答者を分けて集計しています。

### 2-1.日本語を学習したことがあるかどうか 2-2.現在、学習しているかどうか

	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.ある	778(89.53%)	287(92.58%)	1,065(90.33%)
2.ない	91(10.47%)	23(7.42%)	114(9.67%)

	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.している	507(58.34%)	115(37.10%)	622(52.76%)
2.していない	362(41.66%)	195(62.90%)	557(47.24%)

### 2-3日本語学習の理由・目的（複数回答可）

理由・目的	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.日本で生活していくために必要だから	401(79.09%)	91(79.13%)	492(79.10%)
2.日本人との付き合いを広げるため	226(44.58%)	55(47.83%)	281(45.18%)
3.仕事で必要だから	236(46.55%)	55(47.83%)	291(46.78%)
4.より良い条件の仕事を探すため	213(42.01%)	45(39.13%)	258(41.48%)
5.進学や勉強のため	271(53.45%)	61(53.04%)	332(53.38%)
6.その他	35(6.90%)	16(13.91%)	51(8.20%)

全回答者の90%が日本語学習の経験があります。全体の約半分、「日本語版以外」の回答者の60%近くが現在学習中です。学習の理由・目的は「日本で生活していくために必要」が約80%を占めています。

### 2-4.学習していない理由（複数回答可）

理由	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.日本語が第一言語(母語)だ	2(0.55%)	38(19.49%)	40(7.18%)
2.十分な日本語能力を身につけた	①155(42.82%)	112(57.44%)	267(47.94%)
3.日本語を使う必要がない	9(2.49%)	2(1.03%)	11(1.97%)
4.日本語以外の言語で十分生活ができる	26(7.18%)	3(1.54%)	29(5.21%)
5.育児のため、日本語を学ぶ時間的余裕がない	35(9.67%)	6(3.08%)	41(7.36%)
6.仕事のため、日本語を学ぶ時間的余裕がない	②129(35.64%)	40(20.51%)	169(30.34%)
7.日本語を学ぶのに必要な金銭的な余裕がない	64(17.68%)	11(5.64%)	75(13.46%)
8.日本語教室の情報がない	③72(19.89%)	12(6.15%)	84(15.08%)
9.日本語教室の時間が合わない	42(11.60%)	7(3.59%)	49(8.80%)
10.日本語教室が遠くて通うことができない	14(3.87%)	1(0.51%)	15(2.69%)
11.日本語教室の教え方や内容、レベルが合わない	19(5.25%)	7(3.59%)	26(4.67%)
12.どうやって勉強したらいいかわからない	④68(18.78%)	11(5.64%)	79(14.18%)
13.日本語学習用の適切な教材がない	27(7.46%)	4(2.05%)	31(5.57%)
14.日本語学習に対して家族の理解が得られない	0(0.00%)	1(0.51%)	1(0.18%)
15.学ぶ意欲が湧かない	21(5.80%)	8(4.10%)	29(5.21%)
16.その他	20(5.52%)	12(6.15%)	32(5.75%)

現在日本語を学習していないという人たちに、学習していない理由を聞きました。「日本語版以外」の回答者で、「十分な日本語能力を身につけた」の次に多かったのは、「仕事のため、日本語を学ぶ時間的余裕がない」「日本語教室の情報がない」「どうやって勉強したらいいかわからない」です。時間がない、学ぶための情報がない、という方が少なくないことがわかります。

### 2-5.日本語を学習したいかどうか

現在日本語学習をしていない人の内、「日本語版以外」では70%の人が学習を希望しています。

	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.学習したい	254(70.17%)	80(41.03%)	334(59.96%)
2.学習したいとは思わない	108(29.83%)	115(58.97%)	223(40.04%)

### 2-6.日本語学習の方法（複数回答可）

方法	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.独学で(教科書やテレビ等)	275(54.24%)	67(57.39%)	341(54.82%)
2.独学で(インターネットやアプリ等)	282(55.62%)	61(53.04%)	343(55.14%)
3.通信教育で学んでいる	35(6.90%)	8(6.96%)	43(6.91%)
4.無料の日本語教室で学んでいる	27(5.33%)	5(4.35%)	32(5.14%)
5.有料の日本語教室で学んでいる	47(9.27%)	7(6.09%)	54(8.68%)
6.日本語学校で学んでいる	215(42.41%)	38(33.04%)	253(40.68%)
7.家族から学んでいる	10(1.97%)	10(8.70%)	20(3.22%)
8.職場で学んでいる	82(16.17%)	27(23.48%)	109(17.52%)
9.友達(日本人)から学んでいる	91(17.95%)	32(27.83%)	123(19.77%)
10.友達(日本人以外)から学んでいる	44(8.68%)	7(6.09%)	51(8.20%)
11.周りの会話を聞いて覚えている	168(33.14%)	57(49.57%)	225(36.17%)
12.その他	45(8.88%)	9(7.83%)	54(8.68%)

現在、日本語を学んでいる人たちの約40%は、日本語学校で学んでいます。その一方で、日本語教室で学んでいる人は、無料のところであっても5%前後です。

「独学」や、「周りの会話を聞いて覚えている」というような、一人でできる方法を用いている人が少なくないことがわかります。

## 2-7. 現在の日本語能力

「話す」「聞く」「読む」「書く」それぞれについて、1～5の選択肢から、自分の能力を自己判定してもらいました。ここでは、「話す」「読む」の結果を紹介します。

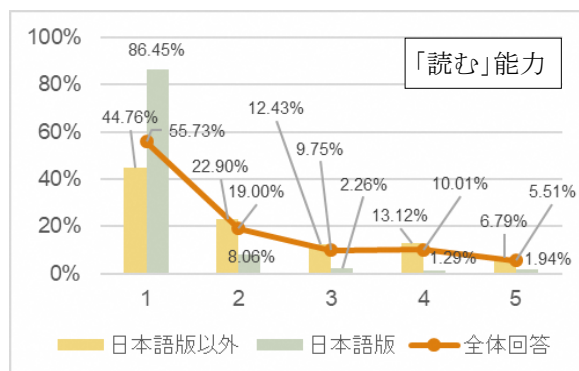
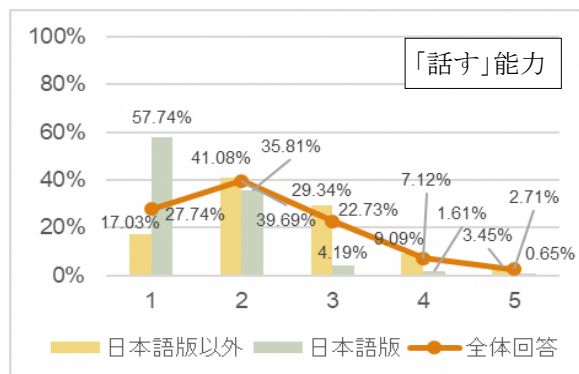
### (1) 「話す」能力

- 1.自分の言いたいことが問題なく話せる
- 2.自分の言いたいことが大体話せる
- 3.簡単な日常会話ができる
- 4.自己紹介、決まった挨拶、単語なら言うことができる
- 5.ほとんど話せない

### (2) 「読む」能力

- 1.役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる
- 2.役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる
- 3.新聞や雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報が取れる
- 4.絵の付いた簡単な指示(ごみの捨て方、料理の作り方)が分かる
- 5.ほとんど読めない

「日本語版以外」の回答者のほうが「日本語版」回答者よりも日本語能力が低いことがわかります。「話す」能力において、「日本語版以外」回答者のうち、40%近くが「簡単な日常会話」または「自己紹介」ができるレベルに留まっています。「読む」能力において、「ほとんど読めない」「絵の付いた簡単な指示がわかる」を合わせると、約20%です。



## 2-8. 日本語を使用する場面(複数回答可)

場面	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.日本語を使う機会はない	8(0.92%)	3(0.97%)	11(0.93%)
2.近所付き合いで	324(37.28%)	178(57.42%)	502(42.58%)
3.電車やバスに乗るとき	389(44.76%)	207(66.77%)	596(50.55%)
4.日常生活や買い物で	752(86.54%)	286(92.26%)	1,038(88.04%)
5.役所の手続で	629(72.38%)	268(86.45%)	897(76.08%)
6.郵便局・銀行の手続で	622(71.58%)	269(86.77%)	891(75.57%)
7.仕事を探するとき	379(43.61%)	158(50.97%)	537(45.55%)
8.仕事で	526(60.53%)	230(74.19%)	756(64.12%)
9.自分が通う学校で	401(46.14%)	117(37.74%)	518(43.94%)
10.病気になったとき	387(44.53%)	223(71.94%)	610(51.74%)
11.子どもの学校の先生と話するとき	128(14.73%)	55(17.74%)	183(15.52%)
12.その他	117(13.46%)	58(18.71%)	175(14.84%)

90%近くの人が「日常生活や買い物」で日本語を使っています。しかし、「日本語版以外」回答者はほとんどの場面について「日本語版」回答者よりも選択率が低く、「日本語版以外」を選んでいる人が日本語を使用する場面は「日本語版」回答者よりも全体的に狭いことがわかります。

## 2-9. 日本語使用において困った場面(複数回答可)

日本語で困った場面	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.困ったことはない	160(18.41%)	194(62.58%)	354(30.03%)
2.近所付き合いで	137(15.77%)	15(4.84%)	152(12.89%)
3.電車やバスに乗るとき	63(7.25%)	6(1.94%)	69(5.85%)
4.日常生活や買い物で	181(20.83%)	15(4.84%)	196(16.62%)
5.役所の手続で	365(42.00%)	22(7.10%)	387(32.82%)
6.郵便局・銀行の手続で	297(34.18%)	20(6.45%)	317(26.89%)
7.仕事を探するとき	220(25.32%)	23(7.42%)	243(20.61%)
8.仕事で	259(29.80%)	42(13.55%)	301(25.53%)
9.病気になったとき	269(30.96%)	45(14.52%)	314(26.63%)
10.子どもの学校の先生と話するとき	68(7.83%)	4(1.29%)	72(6.11%)
11.その他	104(11.97%)	25(8.06%)	129(10.94%)

「日本語版以外」の回答者の80%以上が困ったことがあると答えており、日本語学習の必要性が明らかとなりました。特に日本語使用が多い場面として挙げられた「役所の手続」や「郵便局・銀行の手続」で困る人が多いことが明らかになりました。また、病気になったときや仕事の関係で困る人も多いことがわかります。

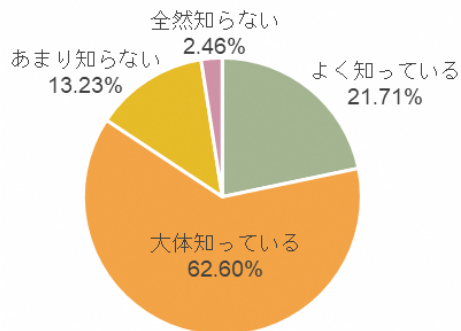
## 2-10. 読んで理解できる言語(複数回答可)

言語	1.日本語	2.中国語	3.韓国・朝鮮語	4.英語	5.フィリピン語	6.ベトナム語	7.ネパール語	8.ミャンマー語	9.タイ語	10.その他
日本語版以外	678(78.02%)	477(54.89%)	74(8.52%)	516(59.38%)	22(2.53%)	107(12.31%)	55(6.33%)	45(5.18%)	4(0.46%)	81(9.32%)
日本語版	300(96.77%)	210(67.74%)	56(18.06%)	213(68.71%)	1(0.32%)	5(1.61%)	4(1.29%)	3(0.97%)	5(1.61%)	43(13.87%)
全体回答	987(83.72%)	687(58.27%)	130(11.03%)	729(61.83%)	23(1.95%)	112(9.50%)	59(5.00%)	48(4.07%)	9(0.76%)	124(10.52%)

## 3. 豊島区の生活について

### 3-1. 情報の有無

#### ①災害時の行動について



#### ②大災害時の避難場所について

	日本語版以外	日本語版	全体回答
1.知っている	446(51.32%)	205(66.13%)	651(55.22%)
2.知らない	423(48.68%)	105(33.87%)	528(44.78%)

災害時の行動は「よく知っている」と「大体知っている」を合わせると8割を超えています。避難場所を「知らない」とした日本語版以外の回答者が約半数を占め、日本語版の回答者の割合を上回っています。

### 3-2. 豊島区ホームページ「外国人のための生活インフォメーション」で利用した情報

位	利用した情報	回答数
1	住所・戸籍・税の手続き	96(68.57%)
2	健康・公的保険	72(51.43%)
3	暮らし	71(50.71%)
4	外国語対応情報	60(42.86%)
5	緊急・災害	52(37.14%)
6	文化・イベント・コミュニティ	49(35.00%)
7	子育て	19(13.57%)
8	その他	12(8.57%)

「外国人のための生活インフォメーション」を利用したことがあるという人に、どの情報を利用したかを複数回答可で答えてもらいました。利用の多い項目としては「住所・戸籍・税の手続き」や「健康・公的保険」など行政手続きと関する項目が上位を占めています。

また、「外国語対応情報」も42.86%となっており、区政情報や窓口の多言語化の必要性を示しています。

### 3-3. 豊島区の多文化共生のあり方として重点を置くべき項目(3つまで選択可)

位	項目	回答数
1	外国人と日本人が交流する機会(イベント等)を作ること	451(38.25%)
2	外国人の生活や就労のための相談窓口を設置すること	400(33.93%)
3	日本で生活するために必要な日本の制度やルールを学ぶ機会を提供すること	316(26.80%)
4	外国人の地域活動への参加を促すこと	300(25.45%)
5	生活情報の提供手段を多様化すること(SNSやICTの活用)	284(24.09%)
6	交流しながらお互いの言語を学習する機会を作ること	277(23.49%)
7	生活リズムの違いを考慮した、日本語学習の機会を増やすこと	240(20.36%)
8	生活情報を、英語・中国語・韓国語以外の言語でも提供すること	232(19.68%)
9	外国人コミュニティへの支援をすること	203(17.22%)
10	日本人が多様な外国語や外国文化を学ぶ機会を設けること	185(15.69%)
11	日本語教室を通いやすい場所に設けること	184(15.61%)
12	外国人の母語や母文化を伝える機会(学校の授業、シンポジウム、冊子等)を作ること	73(6.19%)

外国人と日本人の交流やお互いの言語の学習、日本の制度やルールを学ぶ機会の提供など相互のコミュニケーションの強化や理解の向上を期待する回答が多くなっています。また、生活や就労のための相談窓口の設置を選択した方が多かったのはコロナによる影響も考えられます。

\*本速報版及び翻訳版は、豊島区ホームページ「外国人のための生活インフォメーション」<https://www.city.toshima.lg.jp/info/index.html>及び学習院大学国際センターホームページにて、2021年3月中に公開予定です。

[編集]学習院大学 金田智子, 唐木澤みどり